



# Referee Time

(審判だより48号)

2019.9.2

## 上級受験者全員合格！

審判長 儀間 稔

平成31年度(令和元年)のB級審判員に挑戦した6人が、合格しました。今回は地元で試験が実施(西クラブ選手権)されたので、例年より多くの受験生をチャレンジさせました。受験生には、これまで「1試合最後までしっかり走る持久力」「ボールから絶対に目を離さない」「無駄なベルを吹いてプレーの流れを止めない」等を心掛けさせ、日々練習してきました。これまでの成果が表れたと思います。

全国大会を吹く資格を得ましたので、今後は派遣してもらえるよう自己研究をしながらしっかりと力をつけてほしいと思います。おめでとうございます。

現在C級、D級の皆さんも上級を目指して、多くの試合をジャッジしてほしいと思います。いつ声をかけられてもすぐ提出できるよう、手帳はこまめに記入しておくことを心掛けて下さい。

### B級合格者

金城 久徳(中学)

仲里 昌輝(高校)

金城 康太(高校)

入波平 信吾(八重山)

崎田 尚孝(八重山)

西表 隆久(八重山)

**お知らせ:**「競技・審判ハンドブック2019~2020」が日本ハンドボール協会HPにアップされています。ダウンロードして活用してください。

今年も全国大会に2ペアが派遣されてきました。ジャパンオープンに参加した新垣・比嘉ペアからレポートが届いていますので、掲載します。共有して今後のジャッジの参考にしましょう。

### 「第24回ジャパンオープンハンドボールトーナメント」の審判員を終えて

沖縄県協会新垣裕己・比嘉育志

8月9日(金)~8月11日(日)に、鹿児島県霧島市で開催された上記の大会へ、審判員として派遣させていただきました。学ぶことが多かったので、簡単ではありますが報告いたします。

#### (1)男子の部を3試合担当して

私たちペアの未熟さと、他都道府県の審判員との「力量の差」を感じた。試合に臨む覚悟や準備、表現方法など、A級審判員としての立居振舞の重要性を再認識させられた。まずは足下の県内大会(特に一般の試合)を数多く吹笛し、経験を積むと同時に、後輩の育成にも励んでいきたい。

#### (2)モダンハンドボールについて

モダンハンドボールの精神は「無駄な時間を省く」ということである。無駄な時

間を省くとは、例えば①イエローカードを多く使って試合を止めない、②オフィシャル席・モップ係との連携、③怪我人が出た際の対応等、試合を時間内に終了させ、スムーズに試合を進行させるレフェリーのリーダーシップが問われている。

### (3) 判定について

①イエローカードを提示せず、選手に口頭で注意するのも警告に相当するという考え方がある。その際、レフェリーは選手、場合によってはベンチに素早く駆け寄って説明する。「これ以上捕まえ続けていたら退場です」「ディフェンスが閉まっていたのでチャージングにしました」など。モダンハンドボールでは、選手・ベンチとの会話が必要不可欠となっている。

②サイドシュートを追い込むディフェンスが背を向けて壁を作るのは、正当なディフェンスではなく、ぶつかった時点で一発退場、ぶつからなくても口頭で注意する(県内の一般大会でよく見られる)。また、サイドシュートに対して腰に手をあてたり、意味もなく触れたりするディフェンスも同様に注意する。

③なぜ笛を吹いたのか、なぜ笛を吹かなかったのか、その根拠はいつも持っていますか？常にプレーを予測し、2つか3つの事象を想定しておくことで、起こった瞬間に瞬時に笛を吹くことができる。(例：1枚目と2枚目の間に対するカットインの局面において、①明らかな得点チャンスなのか、②ディフェンスが閉まったらチャージング、③1枚目は6mの中に侵入していないか)。事実判定(事象)が起こるまでの過程をみとることが大切である。

④絶対に視野外に選手を置いてはいけない(特に一般の試合では何かが起こる)。GRは14人、CRは13人を視野に入れておく。

⑤フリースローの後にパッシブを合図する審判員が多い。フリースロー後にも攻撃の手を緩めず展開するチームがある。従って、攻撃の手を緩めているのかどうかレフェリーはよく見極める必要がある。

### (4) 立居振舞

審判員が試合に美しく自然に溶け込む姿を目指したい。①背筋を伸ばし、堂々とした姿勢でコート上に立つ、②許されない行為と判断した際は毅然とした態度で笛を吹く、③選手やベンチと積極的に会話をする等。試合後に、「負けたけど楽しかったです」と選手や役員に握手を求められるように、信頼を勝ち取っていきけるよう「すべての準備」を行っていく。